

# PROJECT MEET NEWS

Mitsubishi Marine Energy & Environment Technical Solution-System

# 25

2024年4月 第25号

## 海事産業の脱炭素化に向けた道筋 - Season 7

MET過給機 優良認定修理業者 表彰制度

アフターサービス体制変更のお知らせ

舵取機 ポンプ オーバーホールの推奨

マリンテックチャイナ2023展示会へ参加

トルコ・日本ビジネスマッチングフォーラム2023へ参加

2024年のデッキクレーン年間生産台数が過去最高に

社長就任挨拶



# 特集

## 海事産業の脱炭素化に向けた道筋

- Season 7 -

### 海事産業のGHG排出削減目標へ向けた取組み

#### 1) 国際海事機関(IMO)のGHG削減目標

2023年7月、ロンドンで開催されたMEPC80(\*1)にて、IMOのGHG削減目標の見直しが採択されました。

以下のグラフは、MMMCZCS(\*2)が最近のGHG排出量実績とGHG削減目標をグラフ化したものです。

これを見ると、ベースとなる2008年から約15年の間で、就航隻数の増加影響を受け、僅か5%程度しかGHG総排出量が削減できていないことが分かります。

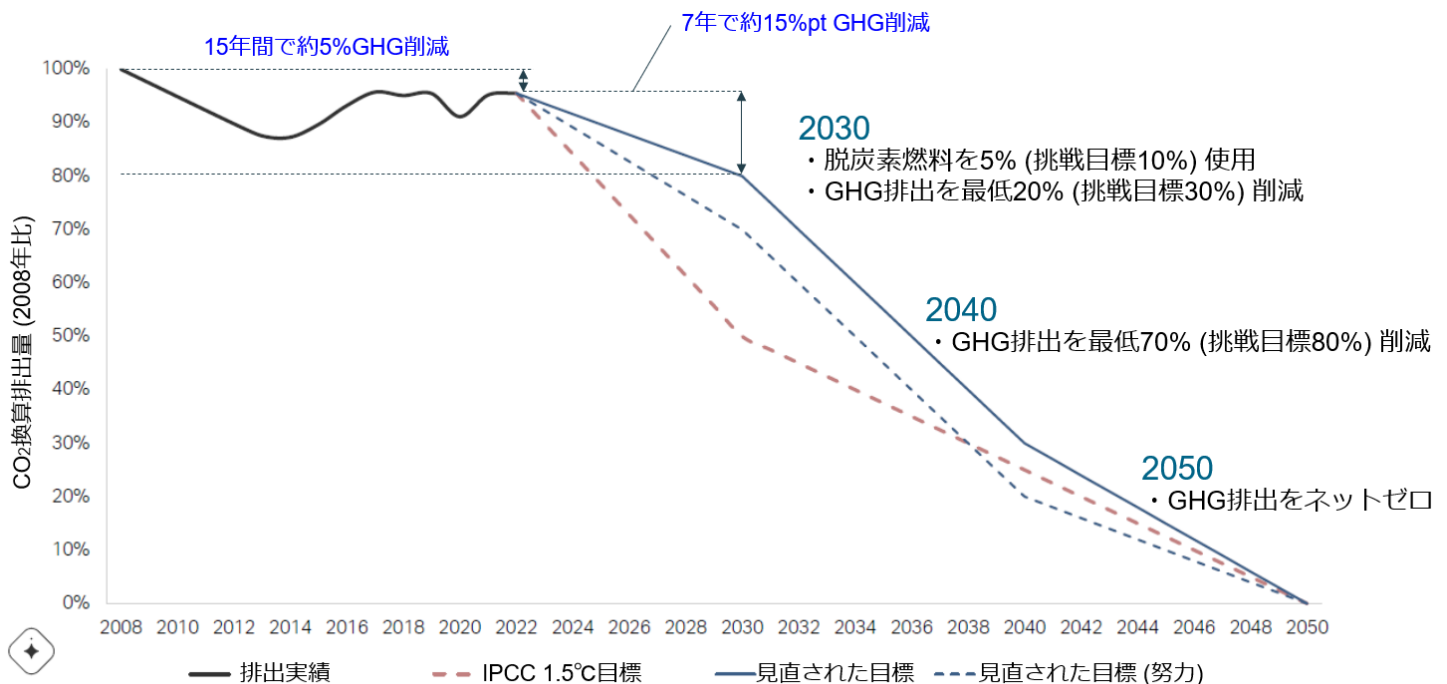
2030年まで、残りの7年の間に15%ptのGHG排出量を削減する必要があります。

ゼロエミ燃料船の普及にはまだまだ多くの課題が残されており、目標の達成は容易ではなく、ゼロエミ燃料の量的確保、ビジネスの成立性や各種規制の強化が急がれると共に、GHG排出削減に対して即効性がある省エネ技術の適用が、このギャップを埋める重要な手段となってきました。

次頁に省エネ技術に関する簡単な紹介をさせていただきます。

(\*1) MEPC : Marine Environment Protect Committee (IMOの海洋環境保護委員会)

(\*2) MMCZCS : Mærsk Mc-Kinney Møller Center for Zero Carbon Shipping (グローバル調査研究機関)



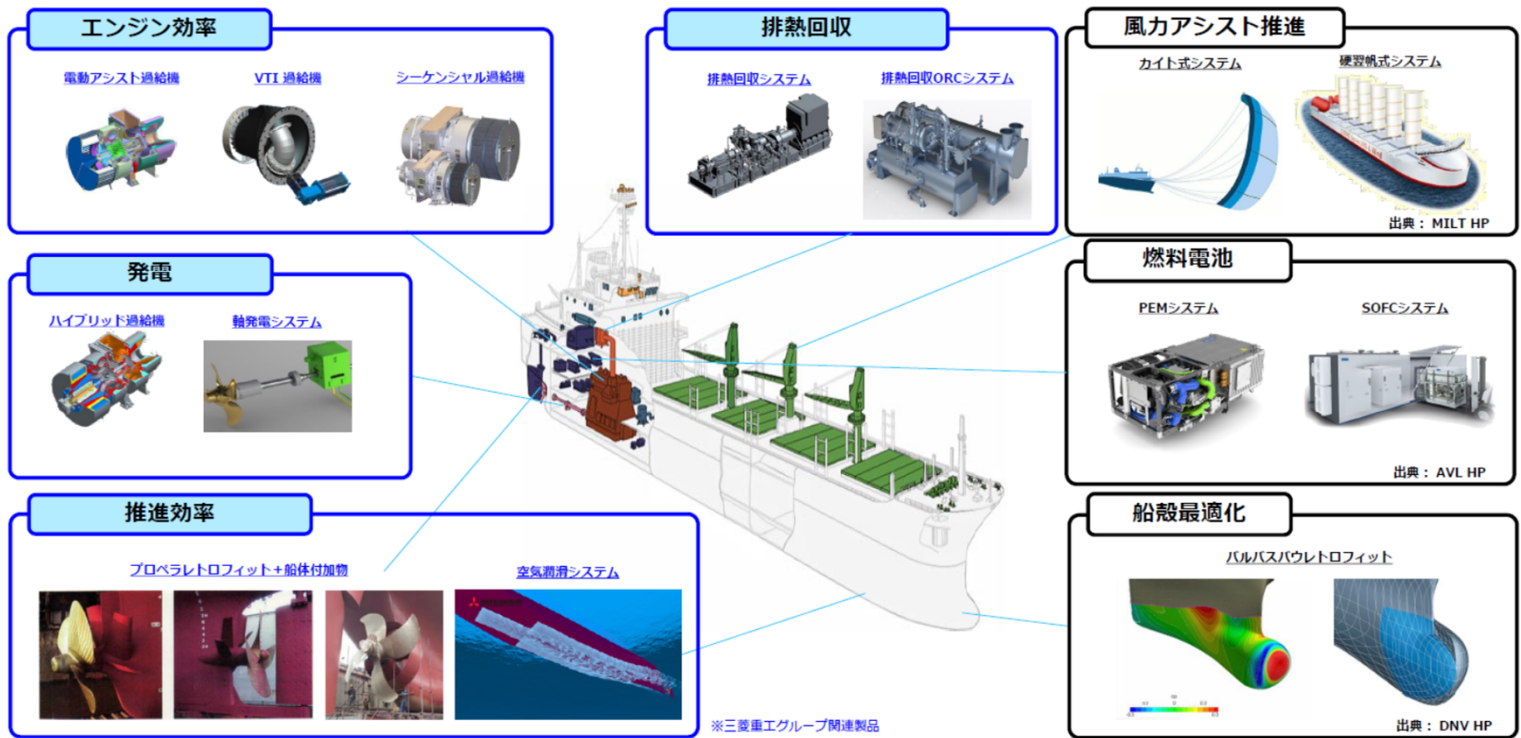
出典: MMCZCS

IMOのGHG削減目標

## 2) 三菱重工グループの取組み

前頁の2030年までにGHG20%削減という直近の目標に対し、新燃料への転換は、サプライチェーンやインフラ設備の整備に時間を要するため、即効性のある省エネ技術の適用が鍵を握っているといえます。

以下の図は、一般的な船舶省エネ技術を示したものです。この中でも、当社は、プロペラレトロフィットや排熱回収技術等でGHG削減に貢献しています。



船舶省エネ技術

## グローバルカンファレンスへの参画

### GMF (Global Maritime Forum) 年次総会(Annual Summit)出席

2023年10/18(水)~10/19(木)、コペンハーゲンを拠点とする、海事産業の脱炭素化を進めるグローバルな非営利団体であるGMFが開催する年次総会がアテネが開催され、三菱重工グループを代表して三菱重工マリンマシナリより2名参加しました。

GMFのパートナーとなっているエネルギー大手、海運大手、船用関連企業、船級、港湾、保険、金融、R&D、コンサル等のバリューチェーンの代表(CxO、役員級)の200名が一堂に会し、脱炭素化に向けた取組み状況や課題に関し、講演、パネルディスカッション、ワークショップ形式で協議を実施しました。

海事産業では最先端を行く欧州の動きを常時モニタリングして、今後の事業運営に活かしていきます。

2024年の年次総会は、10月に東京で開催される予定です。



年次総会の様子

## MET過給機 優良認定修理業者 表彰制度

三菱重工マリンマシナリは、1年の活動実績において特にアフターサービスへの貢献度が高い認定修理業者（ARA）への表彰制度を2023年からスタートしました。制度初の表彰となった4社を紹介します。（国・アルファベット順）

MET過給機はグローバルな認定補修会社のネットワーク網を確立しており、世界中のあらゆる場所で迅速かつ適切なサービスを提供できる体制を構築しています。（2024年4月1日現在：65社）

ARAはWebsiteにて確認が可能です。（<https://www.mhi.com/group/mhimme/services/ara.html>）



### TURBOTECHNIKI LTD. (Greece)



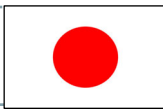
Mr. Kostas Paraskevopoulos, General Manager

URL

<http://www.turbotechniki.gr>

この度は「MET過給機認定補修会社表彰2023」を受賞し、心より感謝申し上げます。三菱重工マリンマシナリとのMET過給機における貴重なパートナーシップは、当社のビジネスにとって非常に重要です。MET過給機の最高の正規修理業者になるための努力が認められたことは大変喜ばしいことです。

### 神戸マリン工業株式会社 (Japan)



代表取締役 辻 英樹 氏

URL

<http://www.kobe-marine.co.jp/>

MET過給機認定補修会社表彰の受賞に大変感謝しております。これは迅速かつ的確なサービス体制と各スタッフの努力の賜物です。現状に甘んじる事無く、更なる発展と成長を目指してまいります。また多くのお客様に支えていただいている事への感謝の気持ちを忘れずに引き続き活動していく所存です。

### GULF TURBO SOLUTIONS PTE LTD. (Singapore)



Mr. KM Pillai, Managing Director

URL

<http://www.turbosolutions247.com>

この表彰は、認定修理業者と三菱重工マリンマシナリの双方がより良いビジネス成果を上げるために、各社がより良いパフォーマンスを発揮することを奨励するものであると考えております。即応性のある顧客サービスや迅速な対応のために、今後も三菱重工マリンマシナリに対し販売や技術的な質問を行い、また各種問題提起なども継続していきます。

### GULF TURBO SOLUTIONS FZC (U.A.E.)



Mr. Easwaran Iyer, Managing Director

URL

<https://www.gulfturbo.com>

MET過給機認定補修会社表彰制度が導入されて最初にGULF TURBO SOLUTIONSがこのような名誉ある賞を受賞したことに心から感謝いたします。この受賞はお客様への信頼を高めます。受賞をはずみにさらに多くの工事を手掛け、MET過給機のアフターサービスビジネスへの貢献度を向上させていただきます。

# アフターサービス体制変更のお知らせ

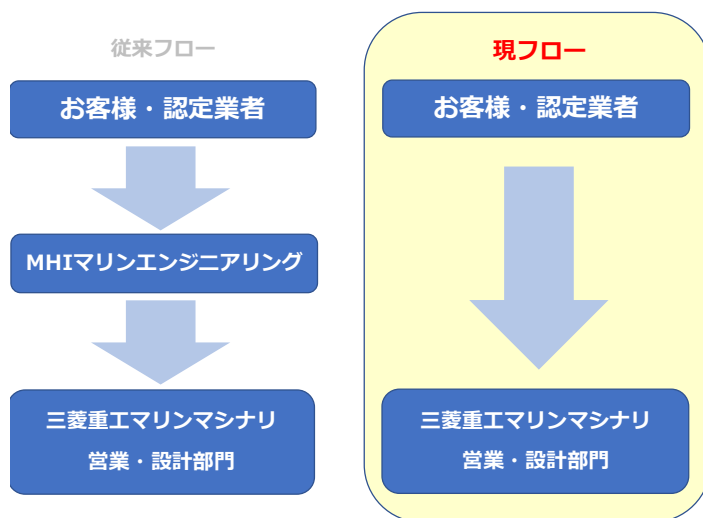
三菱重工マリンマシナリは、2024年4月、アフターサービス窓口業務を自社にて対応する体制に移行しました。

(部品販売・技師派遣・技術問い合わせ等)

メールアドレス：  
marine.machinery.service@mhi.com



対象機器：  
ボイラ、タービン、舵取機、  
フィンスタビライザ、プロペラ、  
MET過給機



より迅速なサービスが提供できるよう努めてまいりますので、引き続きご愛顧賜りますようお願いいたします。

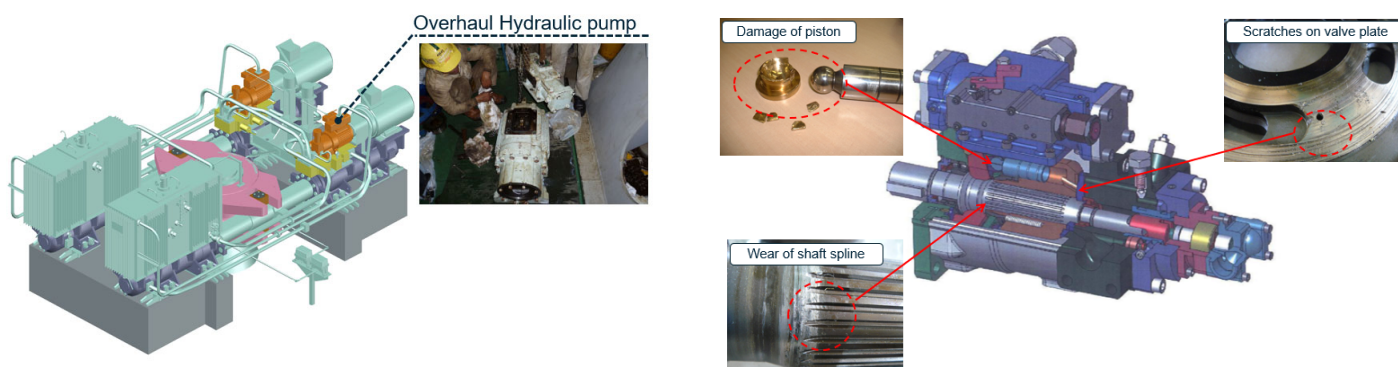
## STEERING GEAR SAFETY OPERATION

### さらなる安全運航のために 舵取機 ポンプ オーバーホールの推奨

舵取機は船舶の進行方向(針路)を変える機能を担う重要な機器です。

三菱重工マリンマシナリの舵取機は故障率が低く、お客様から高評価をいただいておりますが、昨今メンテナンス不良に起因するトラブルが発生しており、最悪の場合、船舶の安全運航に支障がでるケースもあります。作動油の成分分析により、内部部品の異常摩耗や片当たり等を推定することも可能ですが、正確な状態を把握するためには、油圧ポンプを開放して目視点検や寸法計測をする必要があります。

舵取機にとって心臓といえる油圧ポンプには複数の摺動部品が含まれており、5年毎の定期的なオーバーホールを推奨しておりますが、予防整備の観点から油圧ポンプのオーバーホールの定期的なメンテナンスをご検討してはいかがでしょうか。

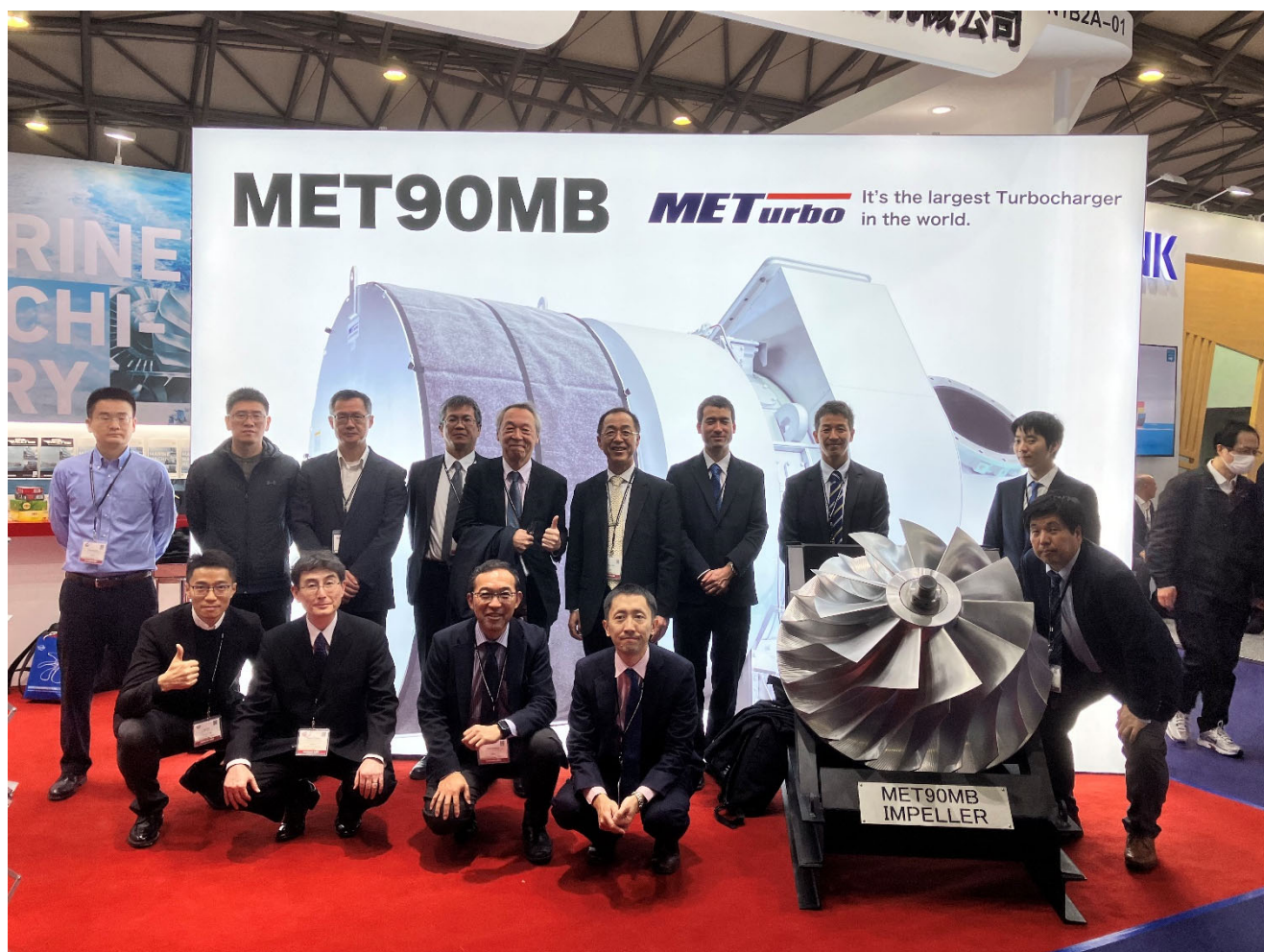
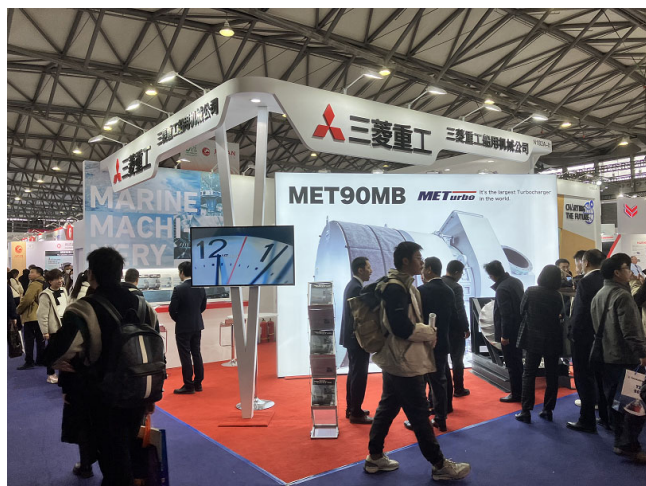


## マリンテックチャイナ2023展示会へ参加

三菱重工マリンマシナリは、12月5日(火)～8日(金)に4年ぶりに上海で開催されたマリンテックチャイナ2023に参加しました。

当社は世界最大の過給機であるMET90MBの羽根車を展示したほか、展示会公式TVのインタビューに役員が登壇するなどグローバルに船用機械のビジネスを展開していることが認知される機会となりました。

また、中国のお客様やライセンサーと直接対話ができる貴重な場となり活発な交流をすることができました。



マリンテックチャイナ2023展示会の様子

## トルコ・日本ビジネスマッチングフォーラム2023へ参加

三菱重工マリンマシナリは、さる11月8日(水)にイスタンブールで開催されたトルコ・日本マリタイムビジネスマッチングフォーラム2023に日本船用工業会の一員として参加しました。フォーラムへは約200名の来場者があり、当社製品を紹介するプレゼンテーションには80名を超える聴講者が集まりました。

また当社役員が日本船用工業会の代表として参加しトルコ船主協会と交流するとともに、会場では多くのお客様にブースを訪問いただき交流を深めました。



ビジネスマッチングフォーラム2023の様子

## DECK CRANE PRODUCTION RECORD

### 2024年のデッキクレーン年間生産台数が過去最高に

三菱重工機械システム（MHI-MS）は、1972年にデッキクレーンを市場投入以来、半世紀以上の歴史を有し、またデッキクレーンの主要市場である日本・中国の両市場に製品を継続供給する唯一のメーカーとして、世界トップシェア（\*）を獲得しています。

さらに2024年のライセンス製品を含めた年間製作台数は500台を超え、過去最高となる見通しです。

MHI-MSはこれからも高品質の製品を安定供給していくことで、世界の物流を支えていきます。

（\*） 2024年納入案件。MHI-MS調べによる。



保管エリアで出荷を待つデッキクレーン

## 就任挨拶

このたび、堀 前社長の後をうけ、三菱重工マリンマシナリの社長に就任いたしました。

当社は、昨年10月に設立10周年を迎え、今年は次の10年に向け新たな一歩を踏み出す年となります。

このような節目の年に社長という重責を受け継ぐこととなり、身が引き締まる思いでいっぱいです。

さて、海運・造船市場に目を移しますと、コロナ禍からの新造船市場の急回復により、日本・中国・韓国の造船所は数年先までの工事量を確保するとともに、中国では休眠船台やエンジン工場の再稼働など供給能力の増強が進んでおり、当社へも多くのご発注をいただいています。一方で、長引くウクライナ問題や材料費/エネルギー費/人件費をはじめとしたコストの継続的上昇に加え、紅海での民間船舶に対する攻撃など新たな課題にも直面しています。また、我々船用機械メーカーの直接のお客様である造船所やエンジンメーカーの再編も進んでおり、今後の市場・事業への影響を注視しているところです。

このような状況の中、昨年1月からは就航船に対するGHG規制としてEEXIとCIIの適用がはじまりました。

さらに7月開催のMEPC80において、GHGゼロエミッション達成目標が「2050年頃までにネット排出ゼロ」へと大幅に前倒しされ、船舶の省エネ・環境対応は待ったなしの状況です。

当社は、『三菱重工グループの知見を共有・活用し、海運・造船分野のGHGゼロエミッションに向けて、船用Technology Providerとして取り組む』を経営ビジョンに掲げ、このMEET NEWSでもご紹介してきたように、『マースク研究所』をはじめとした海事産業の脱炭素化に向けた先端グローバル研究センターとの連動や三菱造船との共同プロジェクト『MaTIS』などの取り組みを行っていますが、今後はその活動をさらに積極的に進めていきます。

具体的には、既に多くのお客様にご採用いただいているプロペラレトロフィットや排熱回収システムに加え、三菱重工グループが持つ技術・製品をフルに活用した新たな省エネソリューションを創出し、提案メニューの充実をはかるとともに、将来のGHGゼロエミッションに向けた新技術やソリューションの検討・開発をより一層加速させていきます。

今後も、良質な製品とサービスの提供を通じ、お客様に必要とされ信頼される会社であり続けることができるよう、さらなる歩みを進めてまいりたいと考えますので、引き続き、三菱重工マリンマシナリの製品をご愛顧いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



三菱重工マリンマシナリ株式会社  
取締役社長 松永 勝秀